社説

政黨の主義

今の政黨には主義の認む可きものなし主義なきの政黨は永續す可き分り切たる成行にして彼等は最初藩閥攻擊の目的を以て起り其目的の爲めに運動して多少は觀る可きものなきに非らざりしかども本來無主義たゞ人に黨する其人物は矢張り藩閥政府に緣故のものに外ならず左れば其人物が固有の地位を失ふて失意の境遇に在るときは一時の感情自家の方略の爲めに部下の黨員と運動を共にして政府攻擊に熱心なれども詰り紀つに絶たれぬ緣故の間柄なれば一旦事情回復して元の古巢に立返れば其黨員も亦相率ゐて政府に味方して藩閥を辯護せざるを得ず自由黨改進黨より今の進歩黨に至るまで其去就の形跡執れも同樣にして近來の成行を見ても純然たる政府黨にして單に當局者の意志に盲從するもののみれば多年來固く契りたる契約を無にして自から離縁するものあるなど畢竟無主義の跡拙にして斯る政黨が永續する筈はあり可き筈と世間の凡俗輩は今の政黨に向て藩閥捕縛政治改良の一事を望みたるみとなれども其望の空なるは今の政府に政黨内閣の實行を望むが如し到底無益の望みにみそれ往年西鄕隆盛翁が時の政府と意見を殊にし薩摩に退去して暗に反對の氣色を示しつゝありし折柄世間の人望は非常のものにして西鄕にして天下の局に當らば云々とて大に望を屬したれども西鄕果して出でたらば如何なりしやと云ふに矢張り依然たる明治政府たりしならんのみ今の政黨も藩閥攻擊を云々して一時の人心に投じながら自から得意の境遇に達すれば忽ち擧動を一變して藩閥の辯護を勉むと云ふ甚だ頼母しからずと云ふ可し我輩は今の政府に藩閥の實を認めて飽くまでも之を排斥せんとするものに非ず年來都内の情實は疑ふ可らざる所なれども其情實も年と共に次第に薄らきて特に非難す可きものを見ず今日に至り之を云々するが如きは迂濶の極なれども彼の政黨の輩の如く大聲疾呼して藩閥云々を叫びながら自から推薦する首領の人物が一旦元の古巢に返れば隨て政府を辯護するが如き次第にては到底永く人心を繋ぐに足らず無主義の政黨、運命の久しからざるは我輩の斷言する所なり然らば則ち日本の政黨たるものは如何なる主義を以て自から立つ可きや三十年來政府の失策は多々なれども大體の方針は進歩の一方にして非常の鉄典を認めず其方針に就ては特に反對の必要なければ顧みて當局者一身の擧動を見れば果して如何、今の平等社會に必要もなき爵位の制なども設けて強ひて人民の階級を區別し稱り自から高きに居て一般人を下視するが如き是れぞ文明社會に許す可らざる擧動にして隨くまでも反對す可き所に非ずや抑も爵位の制は古代に行はれたる貴族政治の遺物にして本來の性質既に厭ふ可きものなり西洋の文明國の間にて今日[illegible]の沙汰あるは如何なる種類にても一旦一旦[illegible]に[illegible]て[illegible]から社會に名譽ある人物に對し何か[illegible]の[illegible]とて[illegible]を[illegible]るものにして其狀恰も[illegible]の[illegible]と[illegible]ると一般その區別[illegible]氣に[illegible]の如き[illegible]を得るみと多く決して政治上一個の[illegible]に出るに非ず然るに我國近來の爵位[illegible]は單に政府部内に限り又政治上に云々の功績ありと認めたるものに限るの例にして恰も政府人の專有に屬すれども其實の淺薄なる自家に專有の爵位を滿社會に通用せしめて獨り名譽を鄙かさんとす當人に於ては愉快ならんなれども社會一般の人は恰も名譽を剝奪せられたるの不愉快を受けざるを得ず取りも直さず階級政治の實を今の文明界に再演せんとするの惡にして苟めにも看過す可らざる所なり苟も文明の思想あらんものは此點よりして彼等に反對せんには名正しく事順にして其主義薄弱の輩なる可し即ち自から平民黨臣民黨もしくは無爵黨の名の下に團結し他を目するに有爵者を以てして他くまでも反對するみとなり或は今の社會の俗習に從ひ爵位を有する者のみと心得て崇拜するものもあらん或は心には理の當然を認めながら事を好まずして沈默するものもあらん兎に角に世間の耳目に新奇の擧動なれば容易に賛成を得ざるやも知る可らずと雖も自由平等は世界の大勢にして終局の成行自から明白なるが故に次第に勢力を逞ふして最後の勝を得るや疑ふ可らず況んや大勢の騒動は案外速にして人意表に出るものあるに於てをや今より若明して目下の紛々たる黨爭の外に立ち吾々は純然たる帝國の臣民なり爵位盛榮に超々たる俗輩に對して無爵の平民なりとて根本相違の一新主義を發表して以て政界に先鞭を着るは眞實主義を愛するものゝ事にして斯くの如くにして始めて堅固なる政黨の樹立を見る可きなり

○上海特報

特派員　松尾久男（二月十日）

●●●